

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 24 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20520382

研究課題名（和文）

ソグド語と古代チュルク語の言語接触に関する包括的研究

研究課題名（英文）

Comprehensive study of the language contact between Sogdian and Old

Turkish

研究代表者

吉田 豊（YOSHIDA YUTAKA）

京都大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：30191620

研究成果の概要（和文）：4 年の研究期間の間に、（1）ソグド語と古代チュルク語との言語接触を色濃く反映するテキストを、未発表の写本も含めて可能な限り集めて研究した。（2）次に言語接触の結果発生したと考えられる現象を体系的・網羅的に収集し、音韻論、形態論など見地から言語学的に分類した。（3）その後、言語接触に関する社会言語学的な研究を参考にして、それらの現象が成立した背景やメカニズムを解明しようとした。

研究成果の概要（英文）：In the course of the four years' research, (1) I collected and studied as many as possible Sogdian texts betraying the strong Old Turkish influence. (2) Then, those features which are likely to have arisen as the result of the linguistic contact between the Sogdians and the Old Turkish were collected systematically and were classified in terms of linguistic categories, such as phonology, morphology, etc. (3) Referring to the recent studies in the field of socio-linguistics, I then tried to clarify the linguistic background and mechanism through which these contact features came to exist.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
年度			
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
2010 年度	900,000	270,000	1,170,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：言語学

キーワード：言語接触，シルクロード，ソグド語，イラン語，古代チュルク語，歴史言語学

1. 研究開始当初の背景

シルクロードの交易民族として有名なソグド人はイラン系の民族であり印欧語の話者であった。彼らは紀元後 11 世紀以前の中央

アジアにおいて、アルタイ系の言語を話す古代のチュルク人（突厥、ウイグルなど）と交流し、その結果としてソグド語および古代チュルク語も変容した。従来ソグド語が

ら古代チュルク語に借用された語彙だけが注目されていたが、近年になってチュルク語の影響を受けたソグド語の資料の存在が確認され、双方向の影響関係が存在したことが明らかになった。ただ言語接触による言語変化の実態は十分に理解されていなかった。

2. 研究の目的

上で述べたような研究上の背景から、ソグド語と古代チュルク語の言語接触について、

- (1) 言語接触の具体的な様相とそれによる言語変化の実態の全貌を解明することと、
- (2) 明らかにされた言語接触による言語変化を、一般言語学、とりわけ社会言語学や歴史言語学の理論の中に位置づけることも本研究の目的である。

3. 研究の方法

(1) 言語接触の歴史的な背景の理解。

まずもって言語接触は、特定の言語を話す人々の交流という具体的かつ歴史的な現象の結果であり、過去に起こった言語接触の研究に際しては歴史的な背景（いつ、どこで、どんなふうに、など）を、歴史研究の成果を利用して明らかにしておく必要がある。

(2) 資料の収集

既に発表されているソグド語文献の中から、言語接触にかかわる文献を特定する。また、言語接触の観点から、従来の読みや理解の改善をめざす。別に未発表の文献をあらたに解読し、資料を追加する。古代チュルク語に借用されたソグド語語彙については、チュルク語学者によるまとまった研究は存在せず、いろいろな研究者が折に触れて言及するというような状況である。従ってそれらチュルク語学者の研究を博搜して、チュルク語の中のソグド語の借用語を収集する。

(3) 言語研究に関する理論的な研究のなかの位置づけ。

社会言語学の一分野には言語接触に関する研究分野があり、かなりの研究成果が蓄積されている。その成果と申請者が研究している現象とを比較検討しながら、接触言語学一般にどのような貢献ができるかを考察する。して来た。二言語併用者が言語変化に果たした役割を検討する。

4. 研究成果

(1) 新資料の収集と研究

言語接触が最も如実に表れるマニ教ソグド語資料のうち、未研究のものを全点調査し文字転写を作成した。これは未発表であるが300頁ほどに及ぶ。この論文を発表した後も新たに同種の資料が発見され、その文書（手紙と帳簿）を世界に先駆け研究し発表することができた。チュルク語の強い影響を示すこの種の特異なソグド語の嚙矢が、9世紀初めのカラバルガスン碑文であることを示したのは筆者であるが、この間には歴史学的に見ても重要なこの碑文のソグド語テキストの全面的な改訂版を作成し、特に重要な知見を論文として発表した。

(2) ソグド語からの借用語の収集

これまで言及したものは主に古代チュルク語からソグド語への影響であるが、ソグド語から古代チュルク語への影響として、ウイグル語（古代チュルク語の重要な方言）文献に見られるソグド語からの借用語をあつめて整理した。ウイグル語文献は現在までに発表されたものだけでも膨大で、網羅的に収集することはできないが、相当数の借用語を集めることができた。ただまだ発表できる段階に至っていない。

(3) 言語接触理論を援用した研究

書体から判断して遅い時期の、チュルク語からの強い影響を示す特異なソグド語につ

いて、一般言語学の知見を援用し言語学的な分析を加え論文として発表した。ここでは言語接触による言語変化の現象の分析と分類だけでなく、それらが10～11世紀において、古代チュルク語とソグド語のバイリンガルの話者が書いた文献であり、バイリンガルの話者に見られる言語の特殊性と空らが発生するメカニズムを明らかにした。

(4) 歴史的背景

これらの主に言語学的な研究とは別に、言語接触が発生した歴史的な背景を明らかにするために、ソグド民族の歴史を包括的に検討したが、その成果としてソグド人の歴史と文化に関する本を出版した。また6世紀から11世紀までに見られるソグド人と古代チュルク民族の交流についても研究を行い論文として発表した。さらに、本来横書きのソグド文字が縦書きされるようになった時代や経緯について研究発表を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計20件)

- (1) 査読有 Y. Yoshida, Review of: Pavel B. Lurje, *Personal names in Sogdian texts*, (R. Schmitt, H. Eichner, B. G. Fragner and V. Sadoski (eds.), *Iranisches Personennamenbuch, Band II, Faszikel 8*), 527 pp. Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften, 2010: *Bulletin of the Asia Institute* 21, 2007 [2012], pp. 201-206.
- (2) 査読無 吉田豊「附論 西安出土北周「史君墓誌」ソグド語部分訳注」森安孝夫(編)『ソグドからウイグルへ』東京 汲古書店 2011年12月15日, pp. 93-111.
- (3) 査読無 Y. Yoshida, “Découvertes récentes en Chine et au Japon. Peinture manichéennes et documents sogdiens (VIIIe –

XIIIe s.)”, in: *Annuaire résumé des conférences et travaux* (Ecole Pratique des Hautes Etudes. Section des sciences historiques et philologiques) 142e année, 2009-2010[2011], pp. 57-59.

(4) 査読有 吉田豊「仏教ソグド語断片研究 (II)」『西南アジア研究』no. 75, 2011, pp. 1-10.

(5) 査読有 Y. Yoshida, “Some new readings in the Sogdian version of Karabalgasun Inscription”, in: M. Ölmez et al. (eds.), *From Ötüken to Istanbul. 1290 years of Turkish (720-2010)*, Istanbul, 2011, pp. 77-86.

(6) 査読無 吉田豊「ソグド人と古代チュルク族との関係に関する三つの覚え書き」『京都大学文学部研究紀要』50, 2011, pp. 1-42.

(7) 査読有 Y. Yoshida, “Karabalgasun. ii The inscription”, in: *Encyclopaedia Iranica*, vol. XV/5, New York, 2010, pp. 530-533.

(8) 査読無 Y. Yoshida, “On the Sogdian version of the Muryōjūkyō 無量寿経 or Larger Sukhāvativyūha”, in: T. Irisawa (ed.), “The way of Buddha” 2003: The 100th anniversary of the Otani Mission and the 50th of the Research Society for Central Asian Culture, Osaka 2010, pp. 85-94.

(9) 査読無 吉田豊「新出のソグド語資料について-新米書記の父への手紙から:西厳寺橘資料の紹介を兼ねて-」『京都大学文学部研究紀要』49, 2010, pp. 1-24.

(10) 査読有 吉田豊「新出マニ教絵画の形而上」『大和文華』121, 2010, pp. 3-34.

(11) 査読有 Y. Yoshida, “A newly recognized Manichaean painting: Manichaean Daēnā from Japan”, in: M.-A. Amir Moezzi, J.-D. Dubois, C. Jullien, and F. Jullien, *Pensée grecque et sagesse d’Orient. Hommage à Michel Tardieu*, Turnhout 2009, 697-714.

- (12) 査読有 Y. Yoshida, “Sogdian”, in: G. Windfuhr (ed.), *The Iranian languages*, London and New York, 2009, pp. 279-335.
- (13) 査読有 Y. Yoshida, “Viša’ Šūra’s corpse discovered?”, *BAI* 19, 2004[2009], pp. 237-242.
- (14) 査読有 Y. Yoshida, “Buddhist literature in Sogdian”, in: R. E. Emmerick and M. Macuch (eds.), *The literature of Pre-Islamic Iran. Companion volume I to A history of Persian literature*, New York 2009, pp. 288-329.
- (15) 査読有 吉田豊「寧波のマニ教画 いわゆる「六道図」の解釈をめぐって」『大和文華』119, 2009, pp. 3-15.
- (16) 査読有 Y. Yoshida, “Minor moods in Sogdian”, in: K. Yoshida and B. Vine (eds.), *East and West. Papers in Indo-European studies*, Bremen 2009, pp. 281-293.
- (17) 査読有 Y. Yoshida, “Turco-Sogdian features”, in: W. Sundermann, A. Hintze and F. de Blois (eds.), *Exegisti monumenta. Festschrift in honour of N. Sims-Williams*, Wiesbaden 2009, pp. 571-585.
- (18) 査読有 Y. Yoshida, “Karabalgasun Inscription and the Khotanese documents”, in: D. Durkin-Meisterernst, Ch. Reck, and D. Weber (eds.), *Literarische Stoffe und ihre Gestaltung in mitteliranischer Zeit*, Wiesbaden 2009, pp. 349-360.
- (19) 査読有 Y. Yoshida, “Die buddhistischen sogdischen Texte in der Berliner Turfansammlung und die Herkunft des buddhistischen sogdischen Wortes für Bodhisattva”, *AOH* 61/3, 2008, pp. 325-358.
- (20) 査読有 Y. Yoshida, “The Brahmājāla-sūta in Sogdian”, in: P. Zieme (ed.), *Aspects of research into Central Asian*

Buddhism (Silk Road Studies XVI), Brepols, 2008, pp. 461-474.

[学会発表] (計 10 件)

- (1) Y. Yoshida, “Picture version of Mani’s Book of the Giants”, American Oriental Society, Boston, USA, 2012/3/17.
- (2) Y. Yoshida, “When did Spgdians begin to write vertical?”, Afghanistan Meeting 2012, Kyoto, Japan, 2012/3/5.
- (3) 吉田豊「旅順博物館所蔵のソグド語資料」, 国際シンポジウム「中央アジア出土の仏教写本」, 龍谷大学, 京都, 2011/10/11.
- (4) 吉田豊「大谷探検隊将来のソグド語仏典について」印度学仏教学会, 龍谷大学, 京都, 2011/9/8.
- (5) 吉田豊「江南の宇宙図とトルファンのマニ教画「巨人の書」をめぐって」, 国際シンポジウム「信仰と絵画」, 大和文華館, 奈良, 2011/6/5.
- (6) Y. Yoshida, “A new Turco-Sogdian document from the late Prof. Arat’s collection”, Turfan forum on old languages of the Silk Road, Turfan, China, 2010/10/24.
- (7) 吉田豊「旅順博物館所蔵のソグド語文書について」龍谷大学・旅順博物館合同討論会, 京都 2010/3/29.
- (8) Y. Yoshida, “Historical background of the Sevrey Inscription in Mongolia”, International conference on the onomastic studies in the Kazakh language area, Astana, Kazakhstan, 2009/12/22.
- (9) Y. Yoshida, “Some other Manichaean paintings from Japan”, International Association for Manichaean Studies, Dublin, 2009/9/11.
- (10) Y. Yopshida, “Heroes of the Shahnama in a Turfan Sogdian text”, International Conference on Central Asian Studies in Memory of B. Marshak, St. Petersburg, 2008/11/13.

〔図書〕（計 1 件）

吉田豊・曾布川寛『ソグド人の美術と言語』

臨川書店 2011, 334 pp. (pp. 1-118).

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉田 豊 (YOSHIDA YUTAKA)

研究者番号：30191620

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

